

# 11月26日(金)「ばあばは・・・」感想

先週<sup>せんしゅう</sup>読<sup>よ</sup>んだ「ばあばは、だいじょうぶ」の感想<sup>かんそう</sup>をたくさん<sup>ひと</sup>の人が送<sup>おく</sup>ってくれました。どうもありがとう。

送<sup>おく</sup>ってくれた、みんなの<sup>こえ</sup>声<sup>しょうかい</sup>を紹介<sup>しょうかい</sup>します。

2年生<sup>にねんせい</sup>〇〇さん「ばあばが、病<sup>びょう</sup>気<sup>き</sup>になっちゃったのが、かわいそうだけど、ばあばはとてもやさしかった」。

3年生<sup>さんねんせい</sup>〇〇さん「ばあばが、無<sup>ぶ</sup>事<sup>じ</sup>に帰<sup>かえ</sup>ってきてくれて、うれしかった」。

6年生<sup>ろくねんせい</sup>〇〇さん「最初<sup>さいしよ</sup>は怒<sup>おこ</sup>っていた人が、最後<sup>さいご</sup>は優<sup>やさ</sup>しくなっていたから、いい話<sup>はなし</sup>だと思った」。

6年生<sup>ろくねんせい</sup>〇〇さん「忘<sup>わす</sup>れっぽくなったおばあちゃんでも、優<sup>やさ</sup>しくしようと思<sup>おも</sup>っていたのが素<sup>す</sup>晴<sup>ば</sup>らしいなと思<sup>おも</sup>った」。

6年生<sup>ろくねんせい</sup>〇〇さん「私<sup>わたし</sup>のおじいちゃんも、実<sup>じつ</sup>際<sup>さい</sup>に認<sup>にん</sup>知<sup>ち</sup>症<sup>しょう</sup>だから、わ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>る部<sup>ぶ</sup>分<sup>ぶん</sup>がありました」。

2年生<sup>にねんせい</sup>〇〇さん「ばあばが一<sup>いち</sup>番<sup>ばん</sup>つらいから、何<sup>なん</sup>度<sup>ど</sup>も教<sup>おし</sup>えてあげればい<sup>い</sup>いと思<sup>おも</sup>う」。

5年生〇〇さん「<sup>にんちしょう</sup>認知症は思っていたより<sup>たいへん</sup>大変だったから、これからはおばあちゃん、おじいちゃんのことも<sup>かんが</sup>考えたい」。 3年生〇〇さん「こういう人がいたら、<sup>たす</sup>助けてあげたいと思った」。 3年生〇〇さん「同じ<sup>おな</sup>認知症<sup>にんちしょう</sup>のおばあちゃんがいるけど、それにも<sup>たいおう</sup>対応できるような自分<sup>じぶん</sup>になりたいです」。 5年生〇〇さん「私のばあばも、<sup>ぜんぶ</sup>全部が<sup>りかい</sup>理解できる<sup>とし</sup>歳ではなくなってきたので、ばあばとの<sup>じかん</sup>時間<sup>たの</sup>を楽しみたいと思った」。 6年生〇〇さん「もし<sup>おや</sup>親や、おじやおばや<sup>そ ぼ</sup>祖母が<sup>にんちしょう</sup>認知症になったら、ちゃんと<sup>かいご</sup>介護してあげたい」 など

みんなの<sup>こえ</sup>声<sup>き</sup>を聞いて、とても <sup>たの</sup>たのしく<sup>かん</sup>感じました。